

研修名 支援を必要とする子どもの保育

令和元年8月1日(木) 13:30~16:00

講演 「保護者や家庭に対する理解と支援」「地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成」「小学校との連携」

講師 舞鶴こども療育センター 四方 あかね 氏

1 講演要旨

1) 保護者や家庭に対する理解と支援

① 障害受容についての段階説

ショック→否認→悲しみと怒り→適応→再起

螺旋型モデル

肯定→否定 をくり返す

② しんどさ

精神的なしんどさ←傾聴・ねぎらい・共感が大切

身体的・物理的なしんどさ←優先順位をつけることが大切

③ 価値観

価値観の違う人と話しても平行線・・・でも子どもの幸せを願うという目的が同じなら共有できることもあるはず

④ 伝え方

できなかったことや良くなかった行動をそのまま報告する。ではなく、できなかったことや困ったことをどう支援したのか報告する

⑤ 家族力動

家庭とは個々の成員の総和以上のものであり、まとまりを持った一つの組織であり、そこには常に家族内のバランスを保つように働く構造・仕組みがある

⑥ 兄弟におこりうる変化

常に障害を持つ兄弟が優先されると「大人から大切にされていない」と感じて傷つく。良い子になって頑張ろうとし、自分の楽しみを犠牲にして世話を焼く

2) 地域の専門機関等との連携

① 主訴(紹介理由)

診断は主訴を解決する為、かつ本人にとって有益である場合のみされるべき

② 発達評価と診断に有用な情報

- ・粗大運動
- ・微細運動、手と目の協応
- ・対人相互関係
- ・ことばの理解と表出
- ・基本的な生活習慣
- ・遊び
- ・情緒の安定
- ・注意集中力、衝動性のコントロール
- ・感覚の鈍感さや敏感さ
- ・家庭環境や母子関係で気になること

③ わかったことを3者、または4者で共通認識する

家庭・医療・保育+本人

④ 連携の方法・ツール

- ・発達支援ファイル
- ・移行支援シート
- ・意見書
- ・ケース会議、支援会議
- ・随時の手紙のやりとり、保護者との連絡帳
- ・保育所等訪問事業
- ・個別支援計画、リハビリテーション実施計画書
- ・IT機器
- ・巡回相談チーム
- ・ADHD評価スケール、子どもの行動チェックリスト

⑤ 保育所等訪問支援

療育の専門職が保育所や学校など日常活動の場を訪問して、子どもがのびのびと力を発揮することができるよう、現場スタッフとともに接し方や環境整備などについて検討・支援を行う

3) 個別の支援計画の作成

長期的な視点で支援していくという考えのもと、乳幼児から学校卒業後まで一貫した的確な支援を行うための計画

4) 小学校との連携

① 就学相談

- ・「振り分け」だと感じている保護者も多い
- ・子どものその場での評価だけでなくこれまでとこれからの歩みを共に考える機会とする
- ・保護者の方の期待と不安を聞いてしっかりと学校に伝える

② 就学相談における留意点

- ・発達の凹凸が大きいと発達指数は本当の知能を表さない
- ・緊張しやすい子や集中しにくい子の評価には限界がある
- ・発達指数以外に考慮すべき因子を漏れなく検討する
- ・今までの経過から年長の一年間の伸びを予測する
- ・入学してみないとわからない部分に対して、柔軟な支援体制を準備しておく
- ・就学の可能性が広がるような進路ということも念頭に置く

③ 発達と発達支援

- ・発達というのは外から与えられる、という一方的な過程ではなく、一人一人の子どもたちが自分の中に可能性として宿しているものが花開いていく主体的な過程である

(白石正久 発達障害論第1巻研究序説 1994)

- ・手持ちに力を使い、今のできなさを引き受けて何とかやりくりしながら、自分の最大限をその都度生きていく中で、初めて次の力が伸びてくる。発達というのはあくまで結果であって目標ではない。

(浜田寿美男 発達支援の本来はどこにあるのか 教育と医学 2006)

- ・その人の主体的過程を妨げない、惑わされない配慮をしてかかわりあう環境の提供が発達には必要なのである。植物でいうと、適温であり適正な水分であり適切な土壌をいかに準備することができるか、ということに尽きる。

(田中康雄 生活障害として診る発達障害臨床 2016)

- ・私たちは子どもたち一人ひとりの生きる喜びを守り生きていく勇気を育みます

2 感想

医療の面からの話を聞くことができ、自分にはなかった視点での話だったのでごく勉強になったし、いい経験になりました。様々な知識を教えてもらったので保育に取り入れられる部分は取り入れて活用していきたいと思いました。また、保護者の気持ちに寄り添い、ともに考えていける関係を築いていく大切さも改めて感じたので、意識して関わってきたいと思いました。小学校との情報交換も密に行い、長いスパンで見守り支援していくことが一人一人を大切にすることにつながり、今後大事になってくるのではないかなと感じました。

(記録 清仁保育園 矢田美祐希)